

論壇

惠泉女学園
大学学長

木村 利人



焼け野原を目にした 衝撃

66年前の8月15日、わたしは学童疎開のため山梨の山村の小さなお寺の境内に整列して、終戦の詔書聞いた。

毎年、この時期に思い出すのは、1941年12月8日の日米の開戦当日、真珠湾攻撃による大戦果の臨時ニュースを聞きながら「この戦争には必ず負けるよ」と、かつてシカゴ大学で医学を学んだ伯父が小学生のわたしに語りかけたことである。それが非国民の声であるように思えて大きなショックを受けたことを今でも鮮明に記憶している。

終戦の詔書聞き、先生から説明を受け、それまでは神風の吹くのを信じていて「まさか、そんなことが起こるはずがない」と思い込んでいた。「神国日本」への信頼はこの日に大きく崩れ去った。

山梨での集団疎開を終えて、東京に帰りつき、我が家のあった場所も含めた広大な焼け野原を目にして衝撃を受けた。わたしの通っていた小学校だけがかるうらして戦災を免れていた。この空襲で焼失した我が家とともにあつた懐かしい記憶への手掛かりを失ったことによる虚脱感も、

「核」兵器の攻撃と「核」による環境汚染
8月上旬、会議で訪れた仙台から車で40分ほど行った海岸の丘の上に立って、そのなき倒された木々と被害のスケールの大きさ、瓦礫の山々をみて、我が家から小学校に至る焼け野原と瓦礫の山のイメージが、わたしのうちで重なり合う体験をした。津波で被災された地域からみて高地に小学校があつて、被災を免れ、一時的に避難所となっていたが、今は既に避難された方々が自宅や仮設住宅へ移られておられた。

66年前に終わりを告げたあの悲惨な戦争による焼け野原は人災によるものだった。そして、同じように見えても、地震、津波による広域の災害は天災によるものである。第二次世界大戦の終わりに炸裂した広島と長崎への

「核」兵器による攻撃と、福島第一原子力発電所の事故による「核」による環境汚染との共通性を指摘しておきたい。核兵器は非人道的な大量殺戮兵器であり、生き残った多くの被爆者にも苦しみを与え続けてきた。

ドイツ連邦政府首相の諮問機関である「安全なエネルギー供給についての倫理委員会」は公開の討論を経て、メルケル首相に対して2022年をめぐにした脱原発への報告書を提出した。この文書の中で「キリスト教の伝統とヨーロッパの文化は自然のための人間の特別の責任を示している」としている。

敗戦の日に——脱原発の倫理

（まじい・りひこ）